



「現代アジアと孫文」を振り返って

安井, 三吉

(Citation)

日華, 55 社団法人神戸日華実業協会90年史 1917年-2007年:21-22

(Issue Date)

2007-12-05

(Resource Type)

article

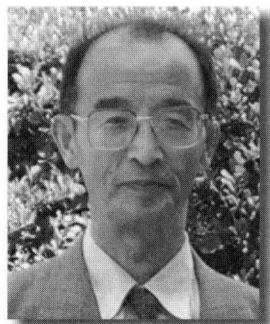
(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90001329>





シンポジウム

「現代アジアと孫文」を振り返って

孫文記念館館長

安井三吉

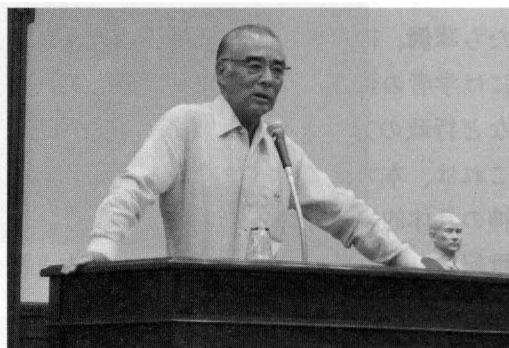
孫文をもっと多くの皆さんに親しんでもらおう、孫文に神戸の活性化のために一役かかってもらえないだろうか。

2007年7月5日、平日の午後にもかかわらず、兵庫県公館の大会議室はつめかけた県民、市民の皆さんで立錫の余地もないほど、私たちの予想をはるかに超えた450名もの方々が参加して下さった。孫文の人気はすごいですね、とは県のある幹部のささやきである。

これほど多くの方々に参加していただいたことに加えて、今回の孫中山記念会主催シンポジウム「現代アジアと孫文」は、孫文のシンポジウムとしては大変ユニークなものであった。というのも、没後80年、孫文については、生誕140周年とか、辛亥革命90周年などになると中国でも政府主催の大規模な集会が催されるが、普通、孫文のシンポジウムなどは研究者、それも中国近代史研究者中心というのが実際のところだからである。

基調講演は、小林陽太郎氏（富士ゼロックス相談役最高顧問、新日中友好21世紀委員会日本側座長）による「魅力あるアジアに向けて」であった。氏は、石橋湛山と宮澤喜一を取り上げ、孫文の「大アジア主義」講演になんども立ち返りながら、アジアのこれからに日本がどう対応すべきについて

お話された。パネルディスカッション「現代アジアと孫文」は、パネリストが渋沢雅英（渋沢栄一記念財団理事長）、瀧川博司（兵庫トヨタ代表取締役会長）、狭間直樹（孫文記念館名誉館長、京都産業大学教授）、季衛東（神戸大学大学院法学研究科教授）、谷野作太郎（元駐中国大使、日中友好会館副会長）の五氏、そしてコーディネーターが五百旗頭真氏（防衛大学校長、新日中友好21世紀委員会委員）という錚々たる顔ぶれであった。個々の方々が錚々たる、というだけでなくその組み合わせがまことにユニークだったのである。このなかで孫文研究者は狭間氏お一人であったが、日本を代表する国際的な孫文研究者であり、このシンポジウムを根のあるものにするうえで氏は欠かせない存在であった。しかし、今回の孫文を語る講演とシンポジウムをユニークなものにしたのは、やはり小林氏をはじ



小林陽太郎氏

めとする経済界の方々、谷野氏のような対中国外交の最前線で活躍されてきた方、季氏のように中国人法学者ではあるが日本についてはむしろ、西欧文化についても造詣の深い方、そして国際政治学者として名高い五百旗頭氏といった方々が参加して下さったという点によっており、こうした面々が神戸という海港都市に一堂に会し、孫文についてそれぞれの立場から自由に語り合っていただけという点である。また、渋谷氏は、渋谷栄一の曾孫さんであり、瀧川氏は瀧川儀作のお孫さんであることも参加者の関心を引いたに違いない。渋谷栄一は、辛亥革命時期の中国中央銀行設立計画に参画し、さらには1913年に孫文が来日したとき、孫文を迎え、共同して日中興業株式会社の設立に尽力しており、瀧川儀作は、周知の通り、1924年11月、神戸商業会議所会頭として、孫文に講演を依頼し、それが有名な「大アジア主義」講演となったのである。

シンポジウムの詳細は、『報告書 世界華商大会プレシンポジウム「現代アジアと孫文」』（財団法人孫中山記念会、2007年8月）を是非ご覧いただきたいと思う。シンポジウムを通じて、孫文の人と思想は、21世紀の今日、東アジアの将来を考え

るうえでなお参照に値するものではないだろうか。孫中山記念会ではまた、華商大会をはさんで、兵庫県立美術館ギャラリーで「日本と孫文」展を開催したが、これほど大規模な「孫文」展は日本ではかつてなかっただろうし、今後も難しいものと思う。なお9月7日、私たちは、トアロードの中華会館東亜ホールで連続シンポジウム「孫文・華僑・東北アジア」の第1日目として「地域に生きる孫文—広東の孫中山、神戸の孫文」という講演とシンポジウムを開催し、ここにも100人を超える市民の方々が参加して下さった。

第9回世界華商大会、日中国交正常化35周年、兵庫県・広東省友好提携25周年という記念が重なったこともあるが、孫文にこれほど関心が寄せられ、孫文もまた町の活性化にこのように役立っている都市は、おそらく神戸をおいてないのではあるまいか。孫文を大切にしたいものである。

